

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100147
法人名	株式会社クローバー
事業所名	グループホームクローバー
所在地	宮崎県宮崎市新別府前浜1401-259 (電 話) 0985-35-3825
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年3月3日

【情報提供票より】(平成20年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(66,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,050 円	

(4) 利用者の概要(2月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.88 歳	最低 80 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	わたよう胃腸科外科・日高歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の静かで、近くに川が流れ、大型ショッピングセンター、神社、病院など環境に恵まれた所にある。交通量が多いが、連れだって川縁を散歩したり、神社参拝したり、買物、外食するにも共同生活の場として落ち着ける。職員は経験者が多く、利用者の経歴や性格を知りそれぞれに対応しているため、優しい雰囲気の中で生き生きとした生活を送られている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成19年4月の新規開設で、初めての評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回初めての評価であり、職員全員が自己評価表を記入し、管理者がまとめている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族、民生委員、地域包括支援センター等の参加で開催している。行事予定の消防署の防災訓練を報告したところ、当日は民生委員や地域住民の参加も得られ、非常災害時の住民の協力をお願いできる良い機会となった。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に出てもらったり、アンケートをとったり、電話や家族の来訪時に聞いたりしている。特に意見は出てこないが、今後も家族との連絡を密にすることを期待したい。重要事項説明書に相談、苦情窓口として、介護長寿課、国民健康保険連合会も加えてほしい。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の福祉施設の夏祭りに招待されたり、ホームの防災訓練に地域の人の参加もあり、少しずつ地元の人々に理解されるようになって、隣人も時々訪れられるようになっていく。今後、自治会、老人会など地域活動への働きかけも期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念が、玄関に明示してある。	○	地域密着型として、グループホーム独自の理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「優しいまなざし、穏やかな言葉、にこやかな笑顔」という思いをスタッフで共有し、日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉施設の夏祭りに招待されたり、ホームの防災訓練に地域の人の参加を得られたり、隣人が時々訪ねられるようになり、少しずつ地元の人々に理解されるように努めている。	○	自治会、老人会など地域活動への働きかけも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての評価であり、職員全員が自己評価表を記入し、管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、地域包括支援センター等の参加で2回開催している。行事予定の消防署の防災訓練を報告したところ、当日は民生委員や地域住民の参加も得られ、非常災害時の住民の協力をお願いできる良い機会となった。	○	運営推進会議は定期的には開催されることを、期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターと「評価について」など相談し、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者の担当する職員と管理者が写真と共に日常の様子を一筆書いて一人ひとりの家族に郵送し、3か月に1回は全体の活動状況を写真も掲載し報告している。また、家族来訪時や電話を利用し意見を聞くなど連携を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートをとったり、電話や、家族の来訪時に聞いたりして意見を聞く機会をつくっている。	○	重要事項説明書に相談、苦情窓口として、介護長寿課、国保連合会も加えてほしい。また、介護相談員の受け入れも考慮されているので期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業開始から、職員の異動や離職は無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員は、月一回の勉強会で復命書による報告をし情報を共有している。		開設から1年、グループホーム内外の研修の機会を利用しさらに質の向上に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出席し、意見交換をしている。また、他のグループホームにも訪問している。		限られた職員の訪問であり、職員の相互交流で質の向上に反映させる意向を持っており、今後を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の介護の限界から本人の納得を得ないまま利用開始になるケースがある。	○	利用者本人が安心して、納得した上で、利用開始できるよう、職員や他の利用者と徐々に馴染めるような関係づくりを家族と相談しながら、取り組んでほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は帰宅願望のある人とその家族の思いを受け止め、共感し自宅に連れて行くなど試みている、また、職員は、料理の仕方や味付けを教えてもらいながら、利用者本人の出来ることはしてもらい出来ない部分を支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を会話の中から把握し、ミーティングや、引き継ぎの時に聞いたことを伝えて職員間で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケアカンファレンスを開き、ケア記録や経過を見ながら、本人の意向、家族の希望を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過記録を参考に毎月一回評価を行い、変化が生じた場合は、その都度、変化が認められない場合は3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や家族の状況に応じて病院受診や墓参りに行くなどの柔軟な対応を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、利用者それぞれのかかりつけ医との連絡を密にし、外来受診や往診を受けるなどの適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで積極的な話し合いの機会は設けていない。	○	本人・家族の様子が落ち着いたら出来るだけ早い段階で重度化した場合や終末期のあり方を、かかりつけ医・本人・家族・職員全員で方針を共有しておくことが望まれる。
t					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの動向を気遣い、そっとティッシュで口元を拭いたり、立ち上がった人に手を添えるなど優しくさりげない対応をしている。また、家族の了解を得た人のみ居室のドアに写真と名前が貼ってある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の好みや性格を知ることで一人ひとりの意思を尊重した支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が献立から調理、後片づけまで一緒にしており、食事中も職員は一緒に食事をしながらさりげなく楽しく語らいながらお世話をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員体制上、入浴は週2回、時間を決めている。利用者の希望に応じた対応はできていない。	○	今月から1名採用の予定ということなので、今まで職員の都合で入浴日が決められていたが、利用者の生活習慣や希望を取り入れた入浴支援を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者がしたいことを支援するように自由に書道をしたり、生け花を習いに行く人、台所を手伝う人それぞれの楽しみごとや趣味を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、ドライブ、買物など利用者の希望に添って外出は頻回に行っている。また家族と一緒に出かける人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	戸外の作業に熱中しているときは開け放していることもあるが、川や道路がホームの両脇にあり、帰宅願望の人も4・5人いるので、家族の了解を得て日中は鍵をかけている。	○	鍵をかけない意識を高く持ち続け、鍵をかけないケアを工夫してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からきてもらい、消火訓練、避難訓練を行っている。民生委員や近所の人にも来られたので、今後に活かしたい。また、通報装置が設置されており、ボタンを押せば直通で連絡出来るようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝の牛乳といろいろな食材を使った季節に応じた料理を皆さん美味しそうに食べておられる。食事や水分の摂取状況は把握されているが量までは把握されていない。	○	同法人の管理栄養士に、献立のカロリーや栄養バランス等を相談してはいかがだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、天窓からの明りも採り入れ、座り心地良いソファが2カ所食卓を挟んで配置され、好きなどころに座れるようにしており、常に利用者がくつろいでいる。雑誌類の本棚や、手作りのカレンダーなど生活感のある場所として工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ギャッジベッドと収納ケースがあるだけの馴染みの品物が少ない部屋がある。	○	家族に相談、依頼して、本人にとって、ベッド、家具、装飾品など馴染みの品に囲まれて落ち着ける場所となるように工夫してほしい。